

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22040

建築物名称	仮称新川崎小学校
建築主	川崎市長 福田 紀彦
建築物の所在地	川崎市幸区新小倉545番83、84、86
設計者氏名、建築士事務所名	鈴木 教久 株式会社 梓設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	17,541.2㎡
用途	小学校
構造	鉄骨造
階数	地上4階
工事完了予定年月	令和7年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	仮称新川崎小学校	階数	地上4F
建設地	川崎市幸区新小倉545番83,84,86	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	1,350 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,500 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2022年10月26日
敷地面積	16,752 m ²	作成者	梓設計 上坂
建築面積	6,340 m ²	確認日	2022年10月26日
延床面積	17,541 m ²	確認者	梓設計 大坪



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 2.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 79%

③上記+②以外の: 78%

④上記+: 78%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 3.8**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 4.6

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.9**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	4.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 敷地内温熱環境の向上	歩道状空地の設置、敷地内緑地を10%以上確保している。 川崎市景観計画、都市景観条例に沿った計画としている。 設備排熱機器の屋上利用、空地率50%を確保している。	3.9/4.3	4.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	屋上緑化を計画している。	0.7/0.8	4.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	4.1
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御	外壁・屋根:U=2.0以下。 中庭やハイサイドライトの設置している。 カーテンの使用及び庇の設置による屋光制御をしている。	0.6/0.9	3.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 敷地内温熱環境の向上	敷地内緑地を10%以上確保している。 設備排熱機器の屋上利用、空地率50%を確保している。	2.3/2.3	5.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI≤0.80を達成。 太陽光発電設備を設置、中庭・トップライトの設置。 省エネ照明器具を採用(LED照明器具など) 中央監視装置によるエネルギー監視システムの採用。	4.3/5.0	4.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	節水コマを採用している。 再生木・高炉セメントを採用している。	3.4/4.7	3.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	敷地周辺の通風に配慮している。	0.7/0.8	4.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.6
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	更新頻度の低い材料を採用している。	0.3/0.5	3.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	節水コマを採用している。 再生木・高炉セメントを採用している。	3.0/4.0	3.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	駐車場と駐輪場の設置している。	0.3/0.4	4.1
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	4.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 敷地内温熱環境の向上	歩道状空地やピオトープの設置、敷地内緑地を10%以上確保している。 設備排熱機器の屋上利用、空地率50%を確保している。	2.3/2.3	5.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI≤0.80を達成。 太陽光発電設備を設置、中庭・トップライトの設置。 省エネ照明器具を採用(LED照明器具など) 中央監視装置によるエネルギー監視システムの採用。	4.3/5.0	4.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	地表面の被覆に寄与した建物、植栽計画としている。	0.7/0.8	4.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **4.1**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	更新頻度の低い材料を採用している。	0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	再生木・高炉セメントを採用している。	1.0/1.2	4.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI≤0.80を達成。 太陽光発電設備、中庭ハイサイドライト設置している。 省エネ照明器具を採用している。(LED照明器具など) 中央監視装置によるエネルギー監視システムの採用している。	4.3/5.0	4.3

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1.2.1 開口部遮音性能										
1.2.2 界壁遮音性能										
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
2.1.1 室温										
2.1.2 外皮性能										
2.1.3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
3.1.1 昼光率										
3.1.2 方位別開口										
3.1.3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
3.2.1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
4.1.1 化学汚染物質										
4.2 換気										
4.2.1 換気量										
4.2.2 自然換気性能										
4.2.3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
4.3.1 CO ₂ の監視										
4.3.2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能							—	0.30	-	-	3.4
1 機能性							3.6	0.40	-	-	3.6
1.1 機能性・使いやすさ							3.0	0.40	-	-	
1	広さ・収納性						3.0	-	-	-	
2	高度情報通信設備対応						3.0	-	-	-	
3	バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性							4.0	0.30	-	-	
1	広さ感・景観						3.0	0.50	-	-	
2	リフレッシュスペース							-	-	-	
3	内装計画					建物全体のコンセプトに合わせて内装や照明計画を計画しインテリアパースを作成し、内装計画を検証	5.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理							4.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計					防汚性の高い内外装仕上げ材を採用するなど、維持管理に配慮した設計	4.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保					廃棄物保管庫について十分な広さを確保	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性							3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振							3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数							3.4	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		R				3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R				2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R			耐用年数の長い仕上げ材の採用	5.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R				3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R			耐用年数の長い管材を採用	5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性							3.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3	電気設備						3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備					通信手段の多様化、浸水リスクの回避	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性							3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり							4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり					階高3.8mに設定	4.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ					縦動線、設備スペースの集約化	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり							3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性							3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性						3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性						3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性					EPSや点検口の設置による更新性の向上	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性					EPSや点検口の設置による更新性の向上	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)							—	0.30	-	-	4.6
1 生物環境の保全と創出		G	W		H	25%の緑化率の計画や立地特性の把握と生物資源の保存	5.0	0.30	-	-	5.0
2 まちなみ・景観への配慮		G				道路沿いの緑化計画と街との調和	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮							5.0	0.30	-	-	5.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上						地域利用可能なホールやテラス、ビロティ空間を計画	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		G	W		H	緑地や空地、屋上緑化の確保と設備機器の屋上設置	5.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性										3.9		
LR1 エネルギー									0.40	-	-	4.3
1	建物外皮の熱負荷抑制	W	H	BPI≤0.80を達成	5.0	0.20					5.0	
2	自然エネルギー利用	W	H		2.0	0.10					2.0	
3	設備システムの高効率化	W	H	[BEQ][BEIm] = 0.50	5.0	0.50					5.0	
4	効率的運用				3.0	0.20					3.0	
	集合住宅以外の評価				3.0	1.00						
4.1	モニタリング	W	H		3.0	0.50						
4.2	運用管理体制	W	H		3.0	0.50						
	集合住宅の評価											
4.1	モニタリング	W	H									
4.2	運用管理体制	W	H									
LR2 資源・マテリアル									0.30	-	-	3.6
1	水資源保護	W	R		3.4	0.20					3.4	
1.1	節水				3.0	0.40						
1.2	雨水利用・雑排水等の利用				3.7	0.60						
1	雨水利用システム導入の有無			雨水利用システムを採用し、便所の洗浄水に利用	4.0	0.70						
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30						
2	非再生性資源の使用量削減				3.8	0.60					3.8	
2.1	材料使用量の削減	W	R		2.0	0.10						
2.2	既存建築躯体等の継続使用	W	R		3.0	0.20						
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R	高炉セメントを基礎、基礎梁、耐圧版、土間コンクリート、捨てコンクリートに採用している。	5.0	0.20						
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R	ハンディウッド(再生木デッキ)、フロアリューム(床材)、エコクレイ(グラウンド舗装)	5.0	0.20						
2.5	持続可能な森林から産出された木材	W	R		2.0	0.10						
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	W	R	躯体と仕上げ材の容易な分別可能な計画	4.0	0.20						
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.20					3.6	
3.1	有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない材料の採用	5.0	0.30						
3.2	フロン・ハロンの回避				3.0	0.70						
1	消火剤	W			-	-						
2	発泡剤(断熱材等)	W			3.0	0.50						
3	冷媒	W			3.0	0.50						
LR3 数地外環境									0.30	-	-	3.6
1	地球温暖化への配慮	W		太陽光発電設備を設置	3.8	0.33					3.8	
2	地域環境への配慮				3.6	0.33					3.6	
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25						
2.2	温熱環境悪化の改善	G	W	H	卓越風を生かした建物の配置計画と設備機器の排熱への配慮	4.0	0.50					
2.3	地域インフラへの負荷抑制				3.7	0.25						
1	雨水排水負荷低減		R		3.0	0.25						
2	汚水処理負荷抑制		R		3.0	0.25						
3	交通負荷抑制		R	駐輪場、駐車施設を確保	5.0	0.25						
4	廃棄物処理負荷抑制		R	ゴミの分別化の推進	4.0	0.25						
3	周辺環境への配慮				3.4	0.33					3.4	
3.1	騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40						
1	騒音				3.0	1.00						
2	振動				-	-						
3	悪臭				-	-						
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制				3.4	0.40						
1	風害の抑制				3.0	0.60						
2	砂塵の抑制			砂塵の発生しない舗装の選定	5.0	0.20						
3	日照障害の抑制				3.0	0.20						
3.3	光害の抑制				4.4	0.20						
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			適切な照明計画と周辺への配慮計画	5.0	0.70						
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30						